法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-06

中国語辞書の可能補語情報について

Wu, Niansheng / 呉, 念聖

(出版者 / Publisher)
法政大学教養部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編 / 法政大学教養部紀要. 外国語学・外国文学編
(巻 / Volume)
119
(開始ページ / Start Page)
201
(終了ページ / End Page)
217
(発行年 / Year)
2002-02
(URL)
https://doi.org/10.15002/00004838

Hosei University Repository

中国語辞書の可能補語情報について

呉　　念　聖

1. 辞書と単語

一般の辞書は，当該言語の主な語の表記，発音，意味および用法などを記載したものだと解してよかろう。つまり，辞書は，形態素レベル・統語レベル・意味レベル・談話レベルから収録語のさまざまな情報を提供する言葉の情報ブックともいえる。

それがゆえ，いかに正確で，かつ要領よく，分かりやすく，できるだけ多く，ユニークな情報を提供するかが，辞書編集者のもっとも腐心するところであろう。だが，先に解決せねばならない問題がある。それはほかでもなく，どんな単語を採集するということである。

利用者のサイドから見れば，辞書，とりわけ外国語辞書は，自分の求めに答えてくれる確率のもっとも高い「助け人」である。「辞書を調べてもない！」というような捨てセリフは逆の意味で，語学の教師ではなく，また教科書でも文法書でもなく，辞書こそがおのれの身近な指南役であり最後の頼りであることを示唆している。

実際問題として，調べたい単語が辞書に載っておらず，あるいは見出し語として出ていないのであれば，先へ一歩も進めない。見出し語は情報庫の入り口のようなものだ。

しかしながら，すべての単語を網羅できる辞書はあるはずがない。辞書の持つ量的な限界とそれに対する利用者の無限な期待の間に大きなギャップが存在する。より効率的に辞書の機能を発揮するために，まず単語の採集基準を決めねばならない。

ここで，単語とは何かを確認したい。言語学上では，「単語は，構成材として文の形成にあたって自立する最小の存在である。文形成にあたって自立することのない，いわゆる助詞や助動詞（英語や日本語をさす――筆者注）は，単

Hosei University Repository

語の構成要素であ」り[1]，また「単語は意味を有する最小の要素である形態素から成る」[2]と規定されている。

しかし実際，辞書を編集する際，以上の規定だけで語の選別を行うわけにはいかない。どうも辞書に関して，別の単語の法則が働いているようである。あるいは，辞書とは，単語だけではなく，語の構成要素や単語以外の語も収録するものだと理解すべきかもしれない。この問題は次の，中国語の場においてさらに検討しよう。

2. 中国語辞書と可能補語

2.1 中国語辞書における単語

中国語の場合，意味を有する最小単位は字（漢字）である。字は必ずしも自立する単語ではない。にもかかわらず，辞書（字書ではない）には，自立できない虚字（虚詞）なども必ず収録される。つまり辞書の立場から，助詞も前置詞もみな単語として取り扱われているのである。

実は，名詞，動詞の場合がもっと複雑になる。例えば“饺”という字は確かに「ギョウザ」の意味を持ち，名詞だと品詞づけしてもよいが，しかし実際“饺”だけでは使わない。その後に“子”をつけて“饺子”にしたり，前に“水”を加えて“水饺”にしたりして使うことにしている。語構成上では，前者は“子”という接尾辞を用いた合成語で，後者は両文字の意味を単純に足した合成語だと見なしてもよかろう。

もう一例をあげよう。現在，中国大陸では“下岗”という言葉がよく使われる。もともとは“下”の「下りる」の意味と“岗”の「歩哨所」の意味との単純合成で「(歩哨が勤務を終えて）歩哨所を下りる」という意味になっているが，そこから派生して「仕事場から下りる」つまり「解雇される」,「失業する」という意味にもなった。親字の釈義から意味を推理するとしたら，“下岗”は“水饺”よりずっと難しい。いや，まったくできないかもしれない。

実際，中国語辞書において，言語学の定義に規定された単語だけでなく，多くの形態素も合成語や慣用語句も収録されている。

2.2 可能補語は単語であるのか

中国語の中で，補語を含む合成語がある。補語はほんらい文構造を解析する

Hosei University Repository

ときの用語であるが，語構造を説明するときにも使われている。いわゆる「動詞一補語」構成の合成語が多く認められている。何種類の補語もあるので，以下では，補語の種類によって，その合成語を「～補語連語」と呼ぶことにする。

看<u>见</u>

というのが結果補語連語であり，下線を引いた部分が結果補語となる。その結果補語の“见”は自立する単語である。

ところで，可能補語は結果補語などと構造が異なっている。

吃<u>得开</u>／吃<u>不开</u>

というのが可能補語連語であり，下線を引いた部分が可能補語となる。“得～”（可能補語＋型）は「～することができる」，“不”（可能補語－型）は「～することができない」という意味を表す。可能補語はその合成語（連語）の補足部にあたるが，自立できない。そういう意味で，可能補語は語の構成要素ともいえる。

しかし，可能補語を分割すれば，“不”や“得”（可能態接辞）は自立できないが，“开”またはそこに位置する動詞や形容詞（可能補語の語基）ならたいてい自立できる単語である。

もっとも権威のあると思われる中国の国語辞書『现代汉语词典　修订本』（中国社会科学院語言研究所詞典編集室編　商務印書館 1997／以下は〈現漢〉と略称）は，可能補語は単語ではないという見方を持っているようである。その証として，〈現漢〉には可能補語が一つも収録されていないのである。（可能補語連語はあるが，のちに詳しく検討する。）

一方，日本で刊行された中国語辞書にはたいてい，常用の可能補語が収録されている。それは可能補語を単語として捉えるためなのか，それとも別の採集基準があったためなのか。その根拠を探りたい。つまるところ，可能補語の情報提供に関して何が一番よい方法なのかという問題になる。それが本稿の研究テーマである。

本稿において，筆者は，辞書の利用者を，日本語を母国語とする者だと強く意識した上で，既存辞書の可能補語情報を分析しながら作業を進めていきたい。分析の基礎データとして〈現漢〉とともに，以下の三辞書を選んだ。

『現代中国語辞典』（香坂順一　光生館　1982／以下は〈光生館〉と略称）

『中日辞典』（尚永清，菱沼透ほか　小学館　1992／以下は〈小学館〉と略称）

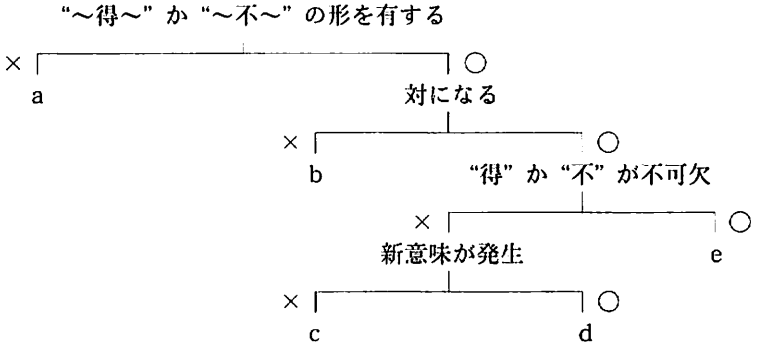
Hosei University Repository

『デイリーコンサイス中日辞典』（杉本達夫ほか　三省堂　1998／以下は〈三省堂〉と略称）

2.3　本稿の研究方法

本稿では，可能補語連語を分析の起点にする。

〈可能補語連語認定チャート〉



分析はまず分類から始める。

可能補語連語は当然，可能か不可能かという意味を帯びる。ただ，可能を表すには他の構文もある。そのため，まず“～得～”か“～不～”という形を有するかどうかをチェックする。×の方はつまりその形ではないもので，ここではａ類と呼ぶことにする。むろん，可能補語連語ではないが，他の補語連語である可能性は排除しない。例えば，“好极了”。

一方，“～得～”か“～不～”という形を有するなら，○である。そこで“～得～”と“～不～”の＋－両型をともに持つか，つまり対になるかという第二のチェックをする。ならないもの，つまり×の方は可能補語連語ではない。例えば“闷得慌”，“差不离”。それをｂ類とする。

対になるもの，つまり○の方は可能補語連語と認定する。その構造上の特徴から，さらに接辞“得”か“不”が不可欠かどうかという第三のチェックをする。でないもの，つまり×の方が“得”か“不”をぬいたら結果補語連語か方向補語連語にもなる。ただ，中では可能補語連語になると，可能態の要素以外，新しい意味が生じるものと生じないものがある。生じないもの，つまり×の方

Hosei University Repository

はｃ類，例えば“赶得上”，“赶不上”のような連語は結果補語か方向補語の範囲内で説明できる。

生じるもの，つまり○の方はｄ類，例えば“过得去”，“过不去”のような連語はやはり可能補語の範囲内で取り扱わねばならない。

対になり，かつ可能態接辞“得”か“不”が不可欠であるものはｅ類である。例えば“吃得消”，“吃不消”。むろん，可能補語の範囲内で検討するしかない。

本稿ではまず，形の上，可能補語に相似するｂ類，場合によってａ類にも触れてみたい。その次，多くの可能補語の素材にもなるｃ類を結果補語と方向補語に分けて分析する。最後，ｄ類とｅ類の可能補語を重点的に検討していく手順となる。

3. 可能補語に相似する補語

3.1 “～不～”型

3.1.1 “～不得”型

「～していけない」などの意味を表す。例えば“吃不得”，“说不得”。“～不得”の反対型は“～得得”ではなく，“～得”である。意味は「してもいい」である。例えば“吃得”，“说得”。

“～不得”連語は〈現漢〉に 12 語，〈小学館〉に 16 語，〈光先館〉に 20 語（“巴不得”と同義の“巴不能”，“恨不得”と同義の“恨不能”の 2 語も計算に入れる），〈三省堂〉に 11 語が採集されている。一部がさらに意味を派生させている。“～不得”連語はそれぞれ 7 語，7 語，8 語，6 語である。

3.1.2 他の“～不～”型

四辞書から次のような非可能補語連語と思われる“～不～”連語を拾ってみた。

みな合成語であるが，形容詞か副詞とされている。

中では，“差不多”，“差不远”がいわゆる＋型“差得多”，“差得远”を持っているが，いずれも可能態ではない。

“好不容易”の反対型は“好容易”である。

Hosei University Repository

	現　漢	小学館	光生館	三省堂
备不住	○	○	○ ad	
差不多	○	○	○ a	○ a
差不离	○	○	○ a	○ a
差不了			○ a	
差不远			○ a	
好不容易		○ ad	○ ad	○ ad
了不起	○	○	○ a	○ a
难不成			○ ad	
气不服			○ a	
气不过		○		○ a
气不平	×	○	○ a	

【表注】 ○とは収録されている意味。(以下同)
品詞付与をした〈光先館〉と〈三省堂〉の欄に品詞を記す。個別的に品詞付与をした〈小学館〉の該当欄にのみ品詞を記す。

3.2 “～得～”型

四辞書から次のような非可能補語連語と思われる“～得～”連語を拾ってみた。

	現　漢	小学館	光生館	三省堂
闷得慌			○ a	
闹得慌			○ 連	
干得过儿		○	○ v	
看得过儿			○ v	
瞧得过儿		○	○ v	
不得了	○	○	○ a	○ a

【表注】「連」は連語の意味。

Hosei University Repository

3.3 構成要素としての程度補語

以上の連語はみな程度補語連語と思われるが，構造上，補語が可能補語に似ており，自立できない語の構成要素にすぎない。

ここで四辞書の見出し語に登場したものを表にした。

	現　漢	小学館	光生館	三省堂
不迭	○	○	○	
得过儿		○	○	
得很		○	○	
得欢			○	
得慌		○	○	
得紧			○	
极了		○	○	

【表注】〈光生館〉はみな接尾辞扱い。

〈現漢〉としてはめずらしく“不迭”を見出し語として立てた。

筆者は，同様に構成要素となる“极了”をこの表に入れた。そして，“得多”も見出し語として立てた方がよいではないかと思う。

3.4 親字の釈義における程度補語情報

程度補語には自立できる語もある。それを含めて四辞書から，釈義（用例は範囲外とする。以下同）において程度補語情報を提供した親字（子見出し語は一つ）を拾ってみた。

“不堪”は否定副詞“不”と形容詞“堪”の合成語である。述語にも補語にもなれる。

“很”，“极”は副詞であるが，ほかは形容詞などとされている。そもそも中国語の品詞付与が大変難しい。多くの語が文中の位置によって何種類もの品詞にもなる。ゆえに，程度補語になる語をみな副詞と見なす意見もある(3)。

Hosei University Repository

	現　漢	小学館	光生館	三省堂
不堪	○	○	○ a	
多		○	○ a	
很		○ ad	○ ad	○ ad
坏		○	○	○ a
欢				○ a
慌	○	○	○ a	○ a
极	○	○ ad	○ ad	○ ad
柔	○	○	○	○ v
煞	○	○	○	
死		○	○	
透		○	○	○ a

4. 結果補語

4.1 親字の釈義における結果補語情報

結果補語となる語はみな自立できる単語である。しかもほとんどが親字である。ここでまず，四辞書では，親字の釈義においてどのように結果補語情報を提供しているかを見てみよう(4)。

その中の“坏”，“死”，“透”3語がさきほど程度補語のところですでに言及したが，結果補語としての用法と意味もあるので，もう一度登場させた。

補語として見出し語を立てたのは〈現漢〉の「掉」の一例だけ。その理由は当該辞書の見出し語の立て方にある。日本刊の諸辞書と違って，〈現漢〉の場合は，同音同字でも意味（主に語源）によって複数立項するので今の“掉”は専ら結果補語用の“掉3”である。

その他はみな釈義において補語用法を説明している。ただ，本表では「動詞の後に用いられる」というような説明があれば，すべて勘定に入れる。補語という用語があったかどうかは問題視しない。

結果補語という用語が頻繁に用いられたのが〈三省堂〉である（“给”，“坏”，“透”を除いて）。

Hosei University Repository

	現　漢　7	小学館　22	光生館　20	三省堂　16
成		○		
错		○		
到	○	○	○	○
掉	○	○	○	○
动		○	○	○
多		○	○	
给	○	○	○	○
够		○		
惯		○		○
光		○	○	○
好	○	○	○	○
坏		○	○	○
见		○	○	○
拢			○	
破		○		
齐			○	
少		○		
死		○	○	
透		○	○	○
妥	○		○	○
完			○	○
醒		○		
在		○	○	○
早		○	○	
着 zháo	○	○	○	○
住	○	○	○	○
走			○	○

Hosei University Repository

4.2 情報提供の必然性

結果補語になれる単語が多い。例えば,『汉语动词一结果补语搭配词典』(王硯農ら編 北京語言学院出版社 1987) という専門辞書には 322 語が収録されている。その中にある "出", "过", "进", "开", "起", "上", "下" の 7 語は, 確かに結果補語の用法も持つが, 本稿の可能補語を視座とする主旨から, 次の方向補語の範囲内で検討してもかまわないと思うので, 対象からはずすことにした。

315 語の中, 40 以上の連語例を挙げたのは 17 語 (遍 40, 成 131, 错 120, 倒 dǎo 52, 到 289, 掉 80, 多 45, 给 47, 好 98, 坏 104, 满 79, 死 47, 完 104, 在 116, 着 64, 住 60, 走 50)。17 語の中, 14 語 (下線がつく) が四辞書の釈義に上がっている。

したがって, 結果補語の情報を提供するかどうかは, まず, その単語が結果補語として動詞と組合せる幅によるのである。

ただ, 理由はそれだけではない。

例えば, "见" と組める動詞は決して多くない。しかし, 結果補語としての "见" はふだん動詞として使われるときと異なる意味を持っている。また "动" の場合, 結果補語として使われるときは, 意味が変わらないが, 可能補語の語基となると, 意味が変わってしまうときがある (後の可能補語のところでまた触れる)。

したがって, 補語になったとき, 新しい意味が発生するどうかも情報提供の必然性に係わる判断材料である。

4.3 結果補語連語の採集

上述したように, 補語になるとき, 新しい意味が発生する単語なら, その釈義の中で情報提供が必要となる。もしもその連語を見出し語として立てることができたら, 利用者にとってなおさら便利になろう。むろん, そのやり方には限界がある。

もしも結果補語連語が構成されるとき, 結果補語側ではなく, 動詞側に新しい意味が発生すれば, その動詞の釈義で触れる必要もあろう。あるいは, 連語として採集せざるを得ないかもしれない。

結果補語連語はすなわち動補構造の離合詞 (離合詞という用語を使わない考

Hosei University Repository

え方もある）である[5]。〈光生館〉の凡例に「動詞と補語から成っているものについては，結びつきの頻度の高いものは一語として取り扱っている。これは考え方によっては，便利的な処理でもあろうが，利用者に便利であり，また補語として用いられる語が限られている現代語では，かならずしも不合理と認められないからである」と書いてある。まったくその通りだと思う。

結びつきの頻度は，けっきょく合成語としての使用頻度をも意味する。

5. 方向補語

5.1 方向補語の情報提供

四辞書において次のように方向補語の情報を提供している。

	現　漢	小学館	光生館	三省堂
出	①	①	②	①
出来	①	①	①	①
出去	①	①	①	①
过	①	①	②	①
过来	①	①	①	①
过去	①	①	①	①
回		①	②	②
回来	①	①	①	①
回去	①	①	①	①
进	②	①	②	①
进来	①	①	①	①
进去	①	①	①	①
开	②	①	②	①
来	①	①	②	①
起	①	①	②	①
起来	①	①	①	①
去	①	①	②	①
上	①	①	②	①
上来	①	①	①	①
上去	①	①	①	①
下	①	①	②	①
下来	①	①	①	①
下去	①	①	①	①

【表注】①は補語として見出し語を立てた意味。
②は釈義において動詞の後に用いるという補語的な用法を説明した意味。

Hosei University Repository

一般的に，中国語の方向補語と見なされる動詞は 10，複合動詞は 13 である。四辞書の取り扱い方には大差がない。

〈小学館〉は 10 の単純方向補語についてスペシャル・スペースを設けてその用法を詳細に説明している。13 の複合方向補語をすべて「－～」の形で単独見出し語として立てた。その上 “回来”，“回去”，“进来”，“进去” の 4 語を除いて，10 の親字と同様にスペシャル・スペースを設けた。

〈光生館〉は 10 の単純方向補語を親字の釈義で説明し，13 の複合方向補語だけを単独見出し語として立てた。ただ，補語でなく接尾辞という用語を用いている。

〈現漢〉はそもそもその見出し語の立て方が日本刊行の中日辞書と異なっており，同形同音でも意味によって二つや三つの見出し語として立てられることがある。21 の単独見出し語。「进」はその親字の釈義で説明している。「回」はその親字の釈義の中では補語の用法ついて触れておらず，用例だけだった。そして，「开」「来」「去」は方向補語としての見出し語以外，同形同音の別の見出し語の釈義でさらにその補語の用法を説明している。ただ〈現漢〉は以上の釈義の中で方向補語または補語という用語を使っていない。

5.2 方向補語連語の採集

結果補語と同じように，方向補語もその連語が多数辞書に採集されている。

6. 可能補語

6.1 可能補語の意を解くために

上述したように，確かに可能補語は構造上の特徴により，多くが結果補語や方向補語の範囲内で意味を確認できるが，できないものもある。つまり，一つは結果補語または方向補語が可能補語になると，新しい意味が発生する問題である。それを解決するために，

① 結果補語や方向補語となる親字（子見出し語もある）の釈義において言及する。

② 結果補語連語や方向補語連語の釈義において言及する。

もう一つは結果補語や方向補語と関係のない可能補語が存在する問題である。それを解決するために，

Hosei University Repository

① 可能補語語基となる親字（子見出し語もある）の釈義において言及する。
② 可能補語そのものを見出し語として立てる。
③ 可能補語連語を採集する。

両方を併せると，解決策は

① 可能補語として用いられるときの意味を考慮に入れて親字の釈義を工夫する。
② 採集された結果補語連語または方向補語連語の釈義において，可能補語になると新しい意味が発生することに言及する。
③ 適当な可能補語連語を採集する。
④ 適当な可能補語を見出し語として立てる。

となる。

ここでは，主として③と④を検討する。

6.2 可能補語連語の採集

紙面の関係で四辞書に収録された可能補語連語一覧をここに載せることを割愛するが，テーマ別にそれに基づくデータを利用させていただきたい。

可能補語連語に関する基本情報は次のようである。

	合計	現漢	小学館	光生館	三省堂	三書以上共通	四書以上共通
総数	229	68	152	160	66		
語数	165	40	93	143	48	48	30
有	66	6	27	56	13	10	5
新	10	3	7	10	4	4	3
無	89	31	59	77	31	34	22

【表注】「総数」は“得”型か“不”型かに関係なく，すべての可能補語連語を数えた数。
「語数」は接辞“得”や“不”の要素に関係なく，その前後の語が同一であるものを一つに数えた数。
「有」は接辞を抜いた結果補語連語か方向補語連語が存在しうる意味。
「新」は接辞を抜いた結果補語連語か方向補語連語が存在しうるが，新しい意味が発生する意味。
「無」は接辞を抜いた結果補語連語や方向補語連語は存在せず，あるいは存在してもあまり使わない意味。
なお「有」「新」「無」はあくまでも筆者の判断によるものである。

Hosei University Repository

表に示されるように，結果補語や方向補語と関係のない可能補語連語がもっとも多く収録されている。ただ，そうでないものを完全排除しているわけでもない。例えば，四辞書共通収録された，結果補語か方向補語の連語もありかつ新しい意味の発生がないものは五例ある（“吃～上”，“犯～着”，“赶～上”，“想～到”，“想～开”）。これは辞書編集者が語の使用頻度を考えた結果であろう。

6.3 可能補語の採集

〈現漢〉は可能補語を語として認めないためか，見出し語には可能補語はいっさい登場していない。

ここで他の三辞書の中で見出し語とされた可能補語を表にした。

	小学館	光生館	三省堂
成	－		
出来	＋　－		
到	＋　－	＋	
动	＋　－	＋	
过	＋　－	＋　－	
过来	＋　－	＋	
过去	＋　－		
及	＋　－	＋　－	－　助
开	＋　－	＋	
来	＋　－	＋　－	
了	＋　－	＋　－	－
起	＋　－	＋　－	－
去	＋　－	＋　－	
上	＋　－		
下	＋　－	＋　－	
下去	＋　－	－	
着	＋　－	＋　－	
住	＋　－	＋　－	

【表注】「＋」は“得”型の可能補語。
「－」は“不”型の可能補語。
「助」は助詞。
また，〈光生館〉は可能補語をすべて接尾辞としている。

Hosei University Repository

6.4 可能補語連語と可能補語の関係

ここで語基を基点に可能補語と可能補語連語との対応関係を整理してみよう。

四辞書に収録された可能補語連語の中に語基は43ある。ここで1例（連語）だけかつ1辞書にだけ登場された語基を除外して次の表をつくった。

語基	語数	有	新	無	現漢	小学館	光生館	三省堂
32	154	58	9	87	40	89	136	48
成	4	3		1		1	3	
出	2	2				1	1	
到	5	4	1		1	2	5	1
定	2		1	1	1	2	2	1
懂	1	1					1	1
动	3			3		1	2	
服	1			1	1	1	1	1
惯	5	5				4	3	1
过	6	1		5	1	3	5	1
过来	3	1		2		2	2	
过去	3			3	1	2	3	1
及	3			3	2	3	3	2
进去	1	1				1	1	
开	11	7		4	3	6	11	3
来	9		2	7	5	5	8	5
了	19			19	4	11	17	7
拢	2		1	1		1	1	
齐	2			2	1	1	2	
起	11	1		10	4	9	10	5
起来	1	1				1	1	
清	5	5				1	5	
去	3		2	1	1	2	3	1
上	19	13		6	5	11	15	7
上来	1			1		1	1	
通	4	2		2		2	4	1
透	1	2				1	1	
下去	2	2					2	
消	1			1	1	1	1	1
着	8	4		4	3	6	7	4
住	12	3	2	7	4	6	12	5
转	2			2	1		2	
准	1			1	1	1	1	

【表注】□は〈小学館〉などに収録された可能補語見出し語。

Hosei University Repository

まず，連語が多ければ多いほど補語として採集させる傾向が見られる。ただ，連語（辞書にあがった見出し語）が少なくても，「無」や「新」と見なされる可能補語はやはり注意されねばならない。例えば“～服”，“～通”，“～消”などの意味を説明するために，見出し語として立てた方がよいと思う。さもなければ，対応する連語（“吃不服”，“行不通”，“吃不消”など）をなるべくたくさん採集することにする。

6.5 ワン・タイプ方式かペア方式か

＋型と－型との両タイプを持つのが可能補語または可能補語連語の特徴である。見出し語に，片方だけを登場させるのがワン・タイプ方式で両方を登場させるのがペア方式と呼ぼう。では，現状ではいかがであろう。

	現　漢	小学館	光生館	三省堂	三書以上共通	四書以上共通
総数	68	152	160	66		
語数	40	93	143	48	48	30
＋型	28	65	20	20	22	7
－型	40	87	140	46	45	30
ペア数	28	58	16	18	22	7

辞書の大きさによって語彙数が異なり，当然可能補語連語の収録数も異なる。それにしても，明らかに取り扱い方が違う

＋型よりずっと多くの－型を登場させたのが〈光生館〉と〈三省堂〉である。それは－型の使用頻度が高いという見方に起因するかもしれない。

それに対して，なるべくペアで出そうという編集方針が，〈現漢〉や〈小学館〉にうかがえる。それは可能補語の構造上の特徴を勘案した結果にちがいない。

筆者としては，後者の方針に賛成する。たとえ片方を見出し語だけの形でも登場させた方がよいと思う。そこでもう片方の釈義を見よという案内をすれば済むことである。

7. ま と め

以上で，幾つかの既存辞書の可能補語情報について確認し，分析してきた。

Hosei University Repository

おのれの勉強がまだまだ足りないことが筆者には十分わかっているが，問題の提起にでもなれたらと思いつつ管見をまとめておこう。

① 何よりももっと辞書の親字の釈義を充実させるべきである。字は意味を持つ最小単位であるということよりも，中国語の単語分割が難しいので利用者の最終手段として字を調べるようになることを簡単に想像できよう。可能補語連語の意を解く場合も同じで，情報のおおもとはやはり親字である。

② 言語学上の単語定義にとらわれず，可能補語など，使用頻度の高い語構成要素を辞書に収録すべきである。ペアのある語はなるべく両方とも見出し語として立てよう。

③ その上，結びつきの頻度の高く，換言すれば慣習化された合成語，補語連語も含めて，を適当に採集しよう。

《注》

（1） 益岡隆志氏ら『文法（岩波講座　言語の科学 5)』p.34　岩波書店 1991。

（2） （1）と同書，p.5。

（3） 張誼生氏が『現代汉语副词研究』（学林出版社 2000）の中で，補語にもなれる副詞として

多，很，极，煞，死，甚，尽，至，远，死死，非常，异常，万分，绝顶，无比，过分

また補語専用副詞として，

坏，慌，透，绝伦，透顶，要命，要死，不行，不成，邪乎，邪行，吓人，够呛，可以，不得了，了不得

それぞれ 16 語を挙げている。

（4） 表以外，〈小学館〉は“往”，“向”，“自”の釈義でその結果補語としての用法を説明した。ただ，結果補語という用語を使ったのは“往”だけ。

（5） 離合詞と辞書について，拙稿「中国語辞書における離合詞の処理方法についての一調査」（『語研フォーラム』第 13 号　早稲田大学語学教育研究所 2000. 10）をご参照。

（中国語学／日中比較文学・第一教養部兼任講師）